会記・Proceedings

魚類学雑誌
48(2): 162-170

2003年度　年会のお知らせ

2003年度年会の予定をお知らせします．詳細は2003年5月に出版される魚類学雑誌49巻1号に掲載します．

期　日：2003年10月10日（金）–10月13日（月）
　　10日　編集委員会・評議員会
　　11–13日　研究発表会およびシンポジウム
会　場：京都大学農学部　〒606-8502　京都市左京区北白川追分町

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2003年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し，郵便で事務局までお送りください．会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので，あらかじめご了承下さるようお願いします．セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください．

申込先：〒260–8682　千葉市中央区青葉町955–2
　　千葉県立中央博物館内
　　日本魚類学会事務局　須之部友基
　　TEL: 043–265–3111
　　FAX：043–266–2481　e-mail: sunobe@chiba-muse.or.jp

必要事項：(1) 標題，(2) 企画者氏名，(3) 趣旨説明（1000字以内），(4) 演者と演題，(5) 連絡先住所・氏名（電話，ファックス，e-mail）．なお，標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが，内容が明瞭にわかるようにして下さい．ただし，実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい．

申込締切：2003年1月31日

2002年度第1回役員会

2002年2月22日（金），於　国立科学博物館・分館
出席者：松浦，西田，藤田，宮，篠原，須之部

1. 前回議事録の確認
2. 報告事項　会長：日本分類学会連合が今年度の日本進化学会でシンポジウムを共催する．編集：本年度の投稿原稿は英文誌7篇，和文誌5篇．2001年の投稿数が英文誌89篇，和文誌16篇．和文誌の主任が後藤晃氏から片野修氏に引き継がれた．会計：シュプリンガー社に印刷費を前倒しで12月に支払った．
3. その他　会計監査は必要に応じて，役員会に出席することになり，会則の一部を変更する．英文誌の受理から掲載まで1年を要するため，短くなるように編集委員会で検討することとなった．役員会の機能の一部を地方で担当することが提案され，今後も議論してゆくこととなった．

2002年度第2回役員会

2002年4月18日（木），於　国立科学博物館・分館
出席者：松浦，川瀬，岡部，瀬能，篠原，須之部，中川（学会事務センター）

1. 前回議事録の確認
2. 報告事項　会長：新・生物多様性国家戦略案に関するパブリックコメントを環境省に提出した．編集：本年度の投稿原稿は英文誌23篇，和文誌6篇．PDFによる投稿が2件あった．49巻3号より英文誌の別刷り注文部数が50部，100部，200部，‥‥（以下100部単位）となった．会計：2001～2003年度予算の収支，概算および案について報告があった．
3. 役員会体制および事務局体制の検討　これまで東京を中心とする会員によって運営されてきた役員会を，地方持ち回りにする案を検討した．
4. 学会史編纂委員会について　石山禮蔵氏へのインタビューの結果が報告された．今後の活動について要項を決めると共に，次の候補者を探すことになった．
5. 和名委員会の設立について　差別的名称や命名の混乱等の問題も含めて，和名に関わる事項を検討する委員会を瀬能宏・佐藤陽一両氏を中心に設立準備を進めることとなった．
6. その他　瀬能宏氏より日本魚類学会公開シンポジウム「メダカも消える?—日本の希少魚類の現状と保全」に関する経過報告があった．

2002年度第3回役員会

2002年6月21日（金），於　国立科学博物館・分館
出席者：松浦，西田，川瀬，河野，宮，茂木，岡部，瀬能，篠原，須之部

1. 報告事項　編集：本年度の投稿原稿は英文誌41篇，和文誌13篇．5月25日に開催された編集委員会の報告があった．庶務：学術著作権協会より平成12年度複写使用料として79,686円の分配があった．
2. シンポジウムおよび自然保護委員会の報告　5月11–12日に神奈川県立生命の星・地球博物館で開催されたシンポジウム「メダカも消える?—日本の希少淡水魚類の現状と保全」および第1回自然保護委員会について瀬能宏氏より報告があった．
3. 自然保護委員と会則の変更について　新たな役職である自然保護委員会担当の設置と，関連する会則の変更について

検討された．

4. 役員会体制および事務局体制の検討　他学会の運営方法を庶務が調べることになった．
5. 東京湾海洋環境シンポジウムについて　工藤孝浩氏を実行委員として学会から派遣することになった．委員は審議結果を学会に報告する．
6. その他　「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例要綱案」に対して，学会としてパブリックコメントを出すことが検討された．

2002年度第4回役員会

2002年8月23日（金），於　国立科学博物館・分館
出席者：松浦，西田，河野，宮，茂木，岡部，中川（学会事務センター）

1. 報告事項　会長：分類学会連合の活動について報告があった．学会賞について，奨励賞を1名が受賞することとなり，総会の直後に30分間の招待講演をしてもらうこととなった．編集：本年度の投稿は英文誌55篇，和文誌19篇．Online Firstを利用していくことを検討中であるが，命名規約との関連を確認する必要のあることが報告された．会計：2002年度収支概算見込み，2003年度改定収支予算（案）などが報告された．支出の部で「自然保護委員会補助金」となっている項目を「各種委員会活動費」に変更することとなった．学会費滞納者と別刷代未入金者のリストが提出された．
2. 会則の改正について　会則のうち役員，幹事会および各種委員会についての記述の改訂が検討された．
3. 2002年度年会について　2002年度年会における評議員会と総会の議案について検討した．
4. 役員会体制および事務局体制について　幹事会を事務局として，4年程度を目安に地方で回すこと，役員会をスリム化し，役員会の回数を減らしていくことなどが検討された．
5. その他　年会での発表形態として液晶プロジェクターとパソコンを用いた方法の導入について検討された．ブラックバスの本の印税を自然保護委員の口座で管理することが提案され，検討された．

2002年度第5回役員会

2002年9月17日（火），於　国立科学博物館・分館
出席者：松浦，西田，川瀬，河野，茂木，岡部，篠原，須之部

1. 報告事項　会長：伊藤魚学研究振興財団に感謝状を10月4日に手渡すこととなった．編集：本年度の投稿は英文誌61篇，和文誌22篇．庶務：第19期日本学術会議会員の選出に係る学術研究団体として登録通知がきたので学会として回答する．
2. 会則の改正について　前回に引き続き会則の改正について検討した．
3. 2002年度評議員会・総会の議題について　2002年度年会における評議員会と総会の議案について検討した．
4. その他　自然史学会連合が調査した刊行助成金の採択状況について説明があった．

2002年度　年会

2002年度年会が2002年10月11日（金）–10月13日（日）に信州大学松本キャンパスにおいて開催され，以下の会合があった．

1. 2002年度第2回編集委員会

10月11日（金）12:00–14:30に編集委員14名が出席して2002年第2回編集委員会が開かれた．議題は以下の通り．1) 報告事項：英文誌・和文誌の投稿状況，カラー印刷代について，英文誌の原稿作成の変更点について，和文誌掲載予定記事について，科研費について．2) 和文誌のスタイルと短報のページ数について．3) 英文誌の和文要約とレビュー論文について．4) 自然保護委員会と共同で作成した「ガイド（案）」について．5) 編集員の補充について．6) 編集顧問からの意見の紹介．

2. 2002年度第1回評議員会

2002年10月11日（金）15:00–17:00に評議員22名（他に委任状20名）が出席して開催された．議長には吉野哲夫氏が選出された．議事は以下の通りであった．(1) 2001–2002年度会務報告．(2) 2001–2002年度編集報告．(3) 2001年度決算報告，同監査報告，および2002年度報告．(4) 2003年度収支予算（案）．(5) 別刷り費の滞納について．(6) 自然保護委員会に関する報告．(7) 日本魚類学会史委員会に関する報告．(8) 日本学術会議に関する報告．(9) 日本分類学会連合に関する報告．(10) 自然史学会連合に関する報告．(11) 学会賞について．(12) 会則の一部改正について．(13) その他．

以上の議題のうち，2001年度決算報告，同監査報告，および2002年度報告，2003年度収支予算（案）については，原案通り承認された．会計幹事は林公義氏に代わり萩原清司氏が，庶務幹事は瀬能宏氏に代わり茂木正人氏が就任することとなった．学会賞細則の改正は，原案通り承認された．会則の改正は原案の一部を修正した上，承認された．今後の年会の開催地は，2003年度京都大学，2004年度琉球大学，2005年度東北大学に決定した．

3. 2002年度総会

2002年10月12日（土）11:00–12:00．出席者105名．議長には吉野哲夫氏が選出された．議事は以下の通りであった．(1) 2001–2002年度会務報告．(2) 2001–2002年度編集報告．(3) 2001年度決算報告，同監査報告，および2002年度報告．(4) 2003年度収支予算．(5) 別刷り費の滞納について．(6) 自然保護委員会に関する報告．(7) 日本魚類学会史委員会に関する報告．(8) 日本学術会議に関する報告．(9) 日本分類学会連合に関する報告．(10) 自然史学会連合に関する報告．(11) 学会賞について．(12) 会則の一部改正について．(13) その他．

会則の改正は，出席者全員の同意を得て可決された．議事終了後，オークション売上金による旅費援助として10名に1人20,000円が授与された．

4. 研究発表会・シンポジウム

口頭発表第1会場・第2会場・ポスター発表第1会場・第2会場に分かれて142題の研究発表が行われた．参加者は開催期間を通じて約250名であった．

5. 懇親会

懇親会は10月12日（土）18:00–20:00に200名の参加者で盛大に開催された．

6. 公開特別講演会

10月13日（日）17:00–18:30，「河川環境と魚類」のテーマで水野信彦氏による「魚のくらしと川の形」および 島谷幸宏氏による「魚のくらしと川の管理」の2題の講演が行われ約150名が参加した．

7. 日本魚類学会賞受賞講演

10月12日（土）12:15–12:45，「カジカ類の精子多型と機能」のタイトルで，奨励賞を受賞した早川洋一氏の受賞講演が行われ約100名が参加した．

8. オークション

年会会場・懇親会場では書籍等のオークションが行われ，282,700円の基金を得ることができた．

9. 評議員会・総会抜粋資料

会員数

（2001年7月現在）

	国内	国外	計
個人会員	1122 (−4)	153 (−4)	1275 (−8)
名誉会員	5 (+1)	5 (+1)	10 (+2)
団体会員	96 (+3)	0	96 (+3)
賛助会員	2	0	2
購読	50 (+4)	19 (+9)	69 (+13)
寄贈	5	11 (+1)	16 (+1)

（　）内は2001年7月現在に対する増減．購読数は和文誌購読のみ．

会員数および入退会者数の推移

年度	国内個人会員			国外個人会員			退会処分
	会員数	入会	退会	会員数	入会	退会	
1991	913	30	12	211	8	1	17
1992	920	47	26	214	5	3	7
1993	940	55	18	222	8	7	18
1994	1002	30	10	176	7	6	58
1995–1996	1056	131	41	192	20	6	13
1996–1997	1106	74	21	177	9	2	34
1997–1998	1121	70	27	170	9	2	55
1998–1999	1139	72	29	172	11	3	29
1999–2000	1120	61	44	168	9	3	43
2000–2001	1126	69	43	157	13	5	44
2001–2002	1122	58	38	153	9	0	35

1994年度以前の会員数は3月上旬，入退会者数は3月末に集計．1995–1996年度の集計期間は1995年1月–1996年7月；1996–1997年度の集計期間は1996年8月–1997年7月．1997–1998年度の集計期間は1997年8月–1998年6月；1998–1999年度の集計期間は1998年8月–1999年7月．1999–2000年度の集計期間は1999年8月–2000年7月；2000–2001年度の集計機関は2000年8月–2001年7月．2001–2002年度の集計期間は2001年8月–2002年7月．

2001–2002年度編集報告

1) 投稿論文

2001年：104篇（英文誌88篇，和文誌16篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類31; 系統5; 形態6; 分布2; 行動生態4; 生態一般21; 仔稚魚14; 遺伝2; 生理1; 組織2

和文誌：分類0; 系統1; 形態2; 分布6; 行動生態1; 生態一般3; 仔稚魚3; 遺伝0; 生理0; 組織0

2002年8月31日現在：76篇（英文誌56篇，和文誌20篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類15; 系統3; 形態2; 分布6; 行動生態1; 生態一般10; 仔稚魚8; 遺伝6; 生理5; 組織0

和文誌：分類3; 系統0; 形態1; 分布5; 行動生態0; 生態一般3; 仔稚魚3; 遺伝2; 生理1; 組織2

2) 出版に要した期間

英文誌（47巻3号から49巻2号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：210日（7カ月）；最長期間：978日（31カ月）；平均期間：418日（14カ月）．

和文誌（47巻2号から49巻1号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：117日（4カ月）；最長期間：531日（18カ月）；平均期間：312日（10カ月）．

日本魚類学会学会賞規則

[総　則]

第1条　日本魚類学会会則第2条に定めるところにより，本規則第3条に該当する者を表彰し，これに学会の賞を授与する．

[賞の種類]

第2条　賞は論文賞と奨励賞の2種とする．

[対象者]

第3条　賞の対象者は一般会員で，次の各項に掲げる者とする．

1) 論文賞　本学会が過去3年間に発行した学会誌 (Ichthyological Research および魚類学雑誌) に掲載された優れた論文の著者．

2) 奨励賞　優れた研究成果をあげ，魚類学の進歩に寄与し，将来の発展が期待される40才未満の者．

[選考の方法]

第4条　受賞者候補の選考は学会賞選考委員会で選考する．

[表彰の決定]

第5条　学会賞選考委員会は，受賞候補者を選定し，評議員会に報告する．評議員会はこれを審議の上受賞者を決定する．

[表彰の方法]

第6条　表彰は賞状の授与とし，総会において受賞理由を公表して贈呈する．

[運営]

第7条　学会賞選考委員会の組織と運営については，運営細則の定めるところによる．

[規則の改正]

第8条　本規則および細則の改正は評議員会の決議によらなければならない．

(2001年1月1日より施行)

学会賞選考委員会の組織および運営細則

1　学会賞選考委員会

1) 学会賞選考委員会は評議員の互選によって選出された5名の委員によって構成される．学会賞選考委員長は委員の互選によって決定する．

2) 委員の任期は2年とし，連続での再任は認めない．

3) 幹事は庶務幹事をもってこれにあたる．

2　運　営

1) 受賞候補者の公募は毎年11月に告示し，翌年3月末に締め切り，7月に決定する．

2) 受賞候補者は一般会員の中から自薦もしくは他薦によって推薦される．各受賞候補者は推薦書（封をしたもの）1部ならびに履歴書，研究業績リストおよび別刷（奨励賞の場合，代表的な論文5篇以内）を各5部選考委員会に提出する．なお，論文賞にあっては，研究経歴や研究業績は審査の対象にはならない．

3) 学会賞選考委員会は推薦された候補者全員を選考の対象とし，審議の上，受賞候補者を選定理由を付して評議会に報告する．

4) 論文賞，奨励賞ともに原則として毎年1件とする．

5) 奨励賞の受賞対象者は過去に同賞を受賞した者は除かれる．

6) 決定は評議員の過半数の同意を得なければならない．

7) 奨励賞の受賞者は日本魚類学会年会において招待講演を行う．なお，旅費は学会が負担する．

(2003年1月1日より施行．ただし，現在の選考委員は任期を終了する2003年末日まで，委員会に留まる．)

2002年度第1回自然保護委員会

日　時：5月12日9:30～12:00

場　所：神奈川県立生命の星・地球博物館会議室

出　席：後藤，細谷，帰山，小早川，前畑，丸山，松浦，森，中井，酒井，佐野，鈴木，瀬能，谷口，渡辺，吉野

[議事]

1 「川と湖沼の侵略者ブラックバス—その生物学と生態系への影響」の出版について委員長より経過報告があった．

2 シンポジウム「メダカも消える?—日本の希少魚類の現状と保全」の総括

参加者数　約200名（記帳分は156名）

会計　収入449600円　支出337434円　残金112166円

<シンポジウムの反省点>

・全体の時間が短い，ただし，4時間が限度だろう．

・演題数が多すぎる．基調講演を入れると4題（25分+5分／人）が適当．

・発表時間を守るように工夫する．

・基調講演以外の演題についてはセクションごとに質問を受け付けてもよい．

・休憩時間もコミュニケーションをとれるだけの時間を配慮する必要がある．

・トップダウン方式の広報のやり方を工夫し，関連諸機関等へ周知する．

・開催期日については和文誌1号の発行後，1～2ヶ月の内が適当．

・参加者に内容についてのアンケート調査を行ってはどうか．

・一般向けであることを意識したプレゼンテーションのやり方を工夫する必要がある．

・専門用語の使い方に工夫をこらす．

・要旨集に専門用語の解説を付けてはどうか．

・どのようなレベルの参加者を想定するのかを明確にする．

・市民向けであれば普及講演会を企画するのもひとつのやり方だろう．

・魚類学会としては当面，指導的立場にある人たちをターゲットにしてよいのでは．

・学会からの補助については今後の見通しは立っていない（※学会予算の配分について見直しを求めていく）．

・予算確保の方法として参加費，助成金についても考慮していく．

3 各部会の活動状況

1) 外来魚問題検討部会

漁業権免許の書き換えにともなう水産庁，漁協，自治体等の動きについて説明があった．

2) 希少淡水魚問題検討部会

検討課題について意見交換した．汽水域など守備範囲を広げる必要がある．農業土木関連の情報収集の必要性が提案された．

3) 希少海産魚問題検討部会

基本情報があまりに不足しているので，まずは希少魚のリスト化を目指す．

日本だけでなく，東アジアという視点が必要．通し回遊魚など，守備範囲を明確にする必要がある．

4 今後の活動方針と計画

次回シンポジウムのテーマについて森委員より以下の提案があった．

テーマ：身近な水辺環境の復元と魚類の多様性保全—メダカも増える？

A案 メダカを巡る諸事情と保全

B案 里川の魚たち“雑魚”の保全

※外来魚問題はどんなテーマでも内容の一部にからめておく．

※今回は概論的だったので，次回は個別のテーマを中心．

※社会的ニーズを正確に把握し，対応していく．

※地域（例えば諫早湾）をテーマにしてはどうか．

※テーマについては森委員が中心になり議論を継続（メールを利用）．

5 委員会委員の改選

希少海産魚問題検討部会の部会長を松浦氏から吉野氏へ交代する．

※吉野氏は部会委員も兼任する．

※評議員会前にメールで承認を得る．

6 委員会の体制の整備

委員会の立場での各委員の活動については委員会へ報告する．

委員会による講師派遣，教育プログラムの開発について検討する．

※講演メニューについてとりまとめを行う（小早川委員）

7 研究のための魚類の使用ガイドライン

委員長より原案が示され，編集委員会とも議論しながら評議員会での成立を目指す．

希少魚の採集地，調査地点についての公表も考慮されるべきであろう．

8 水産庁「ブラックバス等外来魚問題検討会」について

細谷委員より説明があった．

9 各地域の魚類の保全活動との連携について

インターネットやHPを利用したネットワーク作りを模索する（渡辺委員）．

5月22日に開催された日本魚類学会公開シンポジウム「メダカも消える?—日本の希少魚類の現状と保全」についての報告

去る5月22日に神奈川県立生命の星・地球博物館において，魚類学会主催の公開シンポジウム「メダカも消える?—日本の希少魚類の現状と保全」が，神奈川県立生命の星・地球博物館，日本分類学連合，自然史学会連合，魚の会，および鈴廣かまぼこの後援を得て開催されました．

当日の参加者は約200名．講演終了後の総合討論・意見交換の場では，各自治体の関係者から，希少魚類保全の現場からの具体策や子どもたちに対する教育・啓発の仕方に関する要望・意見が出され，またペットショップ店の経営者からは外来魚がフリーで取り引きされている実態などが報告されました．

以下に，シンポジウムのプログラムをお知らせします．

<プログラム>

開催にあたって (13:00–13:10): 後藤 晃（魚類学会自然保護委員会）

基調講演 (13:10–13:50)

「生物多様性と希少野生生物の保全」

鷲谷いづみ（東京大学大学院農学生命科学研究科）

第1部 希少魚類の現状を知る (13:50–14:50，各20分)

1) 日本の希少淡水魚類の現状：細谷和海（近畿大学農学部）

2) 日本の希少汽水魚類・通し回遊魚の現状—ハゼ亜目魚類を中心に： 鈴木寿之（兵庫県立尼崎北高等学校）

3) 日本の希少海産魚類の現状と絶滅に瀕するトカゲハゼについて： 吉野哲夫（琉球大学理学部）

休憩 (14:50–15:00)

第2部 希少魚類の保全策を考える (15:00–15:40，各20分)

1) 希少魚保護のための法整備と行政対応のあり方：

田村省二（環境省自然保護局野生生物課）

2) 希少魚類の系統保存の方法と今後の発展：

酒泉 満（新潟大学理学部）

総合討論・意見交換 (15:40–16:30): 司会進行（瀬能・後藤）

終わりにあたって (16:30–16:40): 松浦啓一（魚類学会会長）

[懇親会] 17:00–19:00

（魚類学会自然保護委員会）

日本魚類学会2001年度収支計算書

（2001年1月1日から2001年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算－決算
会費	12,227,000	13,113,842	−886,842
正会員会費	10,070,000	10,925,000	−855,000
団体会員会費	1,100,000	1,104,000	−4,000
賛助会員会費	60,000	20,000	40,000
外国会員会費	997,000	1,064,842	−67,842
購読料	90,000	222,750	−132,750
英文誌・和文誌購読料	0	135,000	−135,000
英文誌購読料	0	42,750	−42,750
和文誌購読料	90,000	45,000	45,000
バックナンバー収入	100,000	116,100	−16,100
広告料収入	300,000	210,000	90,000
著者負担印刷代	1,000,000	1,221,507	−221,507
刊行助成費	2,200,000	2,400,000	−200,000
雑収入	200,000	498,700	−298,700
入会金	50,000	73,000	−23,000
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	0
会誌発行引当金戻入収入	550,000	550,000	0
当期収入合計	16,917,000	18,605,899	−1,688,899
前年度繰越金	6,960,059	6,960,059	0
合計	23,877,059	25,565,958	−1,688,899

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算－決算
会誌発行費	9,500,000	10,077,523	−577,523
英文誌	6,500,000	7,119,000	−619,000
和文誌	2,500,000	2,202,734	297,266
編集費	500,000	755,789	−255,789
会誌発送費	950,000	920,670	29,330
役員会合費	50,000	27,550	22,450
シンポジウム費	200,000	200,000	0
消耗品費	50,000	0	50,000
通信費	400,000	414,440	−14,440
諸印刷費	150,000	144,760	5,240
年会運営費	250,000	250,000	0
年会参加補助金	200,000	200,000	0
人件費	20,000	0	20,000
交通費	400,000	248,120	151,880
業務委託費	2,900,000	2,749,277	150,723
什器備品費	100,000	0	100,000
協賛金	50,000	46,670	3,330
雑費	300,000	97,365	202,635
国際会議繰入金	10,000	64,822	−54,822
会誌発行引当金	550,000	600,000	−50,000
名簿作製積立金	200,000	200,000	0
雑損失	0	0	0
予備費	100,000	100,000	0
当期支出合計	16,380,000	16,341,197	38,803
次年度繰越金	7,497,059	9,224,761	−1,727,702
合計	23,877,059	25,565,958	−1,688,899

貸借対照表

2001年12月31日
（単位：円）

借方 科目	金額	貸方 科目	金額
流動資産		流動負債	
預け金	2,856,059	未払費用	1,070,388
小口現金	16,125	前受会費	6,020,000
定期預金	5,018,883	会誌発行引当金	600,000
金銭信託（ヒット	2,004,122	名簿作製積立金	400,000
前払費用	6,593,960	国際会議繰入金	1,547,674
未収入金	426,000	オークション積立金	746,795
定期預金	2,694,469		
		次年度繰越金	9,224,761
		前年度繰越金	6,960,059
		当年度収支差額	2,264,702
		今年度収支差額	2,355,202
合計	19,609,618	合計	19,609,618

財産目録

2001年12月31日
（単位：円）

資産の部

科目	摘要	金額
流動資産		
預け金	(財)日本学会事務センター	2,856,059
小口現金	学会幹事手元金	16,125
定期預金	第一勧業銀行本郷支店	5,018,883
金銭信託（ヒット）	東洋信託銀行本店営業部	2,004,122
前払費用		6,593,960
	英文誌 Vol. 49 No. 1~4 購読料	6,510,000
	通信費（2002年度会費請求書等郵税）	77,760
	会費口座振替通知料	6,200
未収入金		426,000
	著者負担印刷代	316,000
	広告料	110,000
定期預金		2,694,469
	第一勧業銀行本郷支店	400,000
	東洋信託銀行本店営業部	2,294,469
合計		19,609,618

負債の部

（単位：円）

科目	摘要	金額
流動負債		
未払費用		1,070,388
	編集幹事手許金精算差額分	9,244
	和文誌 Vol. 48-2 会誌作製費	1,061,144
前受会費	2002年度以降分会費	6,020,000
会誌発行引当金		600,000
名簿作製積立金		400,000
国際会議繰入金		1,547,674
オークション積立金		746,795
合計		10,384,857

繰越金

（単位：円）

科目	摘要	金額
前年度繰越金		6,960,059
当年度収支差額		2,264,702
合計		9,224,761

試　算　表

	2002年度予算額		2002年6月30日現在	
預け金			1,327,791	
小口現金			46,125	
普通預金			4,004,411	
定期預金			8,018,883	
未収入金			0	
前払費用			0	
立替金			−88,161	
定期預金			2,694,469	
未払費用				0
前受会費				77,000
会誌発行引当金				0
名簿作製積立金				400,000
国際会議繰入金				1,547,674
オークション積立金				746,795
前年度繰越金				9,224,761
小計			16,003,518	11,996,230
会費		12,250,000		11,703,781
正会員会費		10,210,000		9,843,000
団体会員会費		1,070,000		948,000
賛助会員会費		40,000		20,000
外国会員会費		930,000		892,781
購読料		200,000		54,600
広告料収入		240,000		60,000
著者負担印刷代		1,000,000		274,008
刊行助成費		2,400,000		0
雑収入		200,000		13,309
入会金		50,000		34,000
オークション積立金取崩収入		200,000		0
名簿積立金戻入収入		400,000		0
会誌発行引当金戻入収入		600,000		600,000
会誌発行費	10,200,000		6,751,750	
英文誌	7,200,000		6,567,750	
和文誌	2,500,000		0	
編集費	500,000		184,000	
名簿作製費	400,000		0	
会誌発送費	950,000		431,780	
役員会合費	50,000		0	
シンポジウム費	200,000		0	
消耗品費	50,000		0	
通信費	400,000		135,080	
諸印刷費	100,000		3,930	
年会運営費	250,000		0	
年会参加補助金	200,000		0	
人件費	20,000		0	
旅費	900,000		432,180	
業務委託費	2,900,000		945,000	
什器備品費	100,000		0	
協賛金	50,000		0	
雑費	300,000		32,690	
国際会議繰入金	10,000		0	
会誌発行引当金	600,000		0	
名簿作製積立金	200,000		0	
雑損失	0		0	
予備費	100,000		0	
小計	17,980,000	17,540,000	8,732,410	12,739,698
前年度繰越金		7,497,059		
次年度繰越金	7,057,059			
合計	25,037,059	25,037,059	24,735,928	24,735,928

日本魚類学会2003年度収支予算

（2003年1月1日から2003年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	02年度予算額	03年度予算額	備考
会費	12,250,000	12,640,000	
正会員会費	10,210,000	10,600,000	1,121名×10,000円×92%+3%（過年度分）
団体会員会費	1,070,000	1,090,000	96団体×12,000円×95%
賛助会員会費	40,000	40,000	2社×20,000円×100%
外国会員会費	930,000	910,000	*1
購読料（バックナンバー収入含）	200,000	100,000	当年度発行和文誌売上，バックナンバー売上収入
広告料収入	240,000	210,000	7社/年掲載分
著者負担印刷代	1,000,000	1,000,000	
刊行助成費	2,400,000	2,700,000	H14年度科研費補助金金額参照
雑収入	200,000	200,000	
入会金	50,000	50,000	
オークション積立金取崩収入	200,000	200,000	
名簿積立金戻入収入	400,000	—	
会誌発行引当金戻入収入	600,000	675,000	H14年度科研費補助金2,700,000円×1/4引当金
当期収入合計	17,540,000	17,775,000	
前年度繰越金	9,224,761	8,784,761	
合計	26,764,761	26,559,761	

*1 {112名×（7,000円−350円）×80%}+{42名×（10,000円−500円）×80%}

支出の部　（単位：円）

科目	02年度予算額	03年度予算額	備考
会誌発行費	10,200,000	10,200,000	
英文誌	7,200,000	7,200,000	IR Vol. 50–1〜4（650万円＋カラーページ代）
和文誌	2,500,000	2,500,000	魚雑 Vol. 50–1, 2
編集費	500,000	500,000	
名簿作製費	400,000	—	
会誌発送費	950,000	950,000	IR Vol. 50–1〜4，魚雑 Vol. 50–1, 2発送郵税等
役員会合費	50,000	50,000	
シンポジウム費	200,000	200,000	2003年度年会事務局へ
消耗品費	50,000	50,000	
通信費	400,000	400,000	
諸印刷費	100,000	150,000	
年会運営費	250,000	250,000	2003年度年会事務局へ
年会参加補助金	200,000	200,000	2003年度年会参加補助金
学会賞費	—	100,000	年会時講演招待旅費・宿泊費
各種委員会活動費	—	200,000	各種委員会へ
人件費	20,000	20,000	
旅費	900,000	700,000	役員会・編集委員会・学会賞選考委員会旅費
業務委託費	2,900,000	2,900,000	
什器備品費	100,000	100,000	
協賛金	50,000	50,000	
雑費	300,000	200,000	
国際会議繰入金	10,000	10,000	
会誌発行引当金	600,000	675,000	
名簿作製積立金	200,000	200,000	
雑損失	0	0	
予備費	100,000	100,000	
当期支出合計	17,980,000	17,705,000	
次年度繰越金	8,784,761	8,854,761	
合計	26,764,761	26,559,761	

注）02年度の前年度繰越金は01年度決算額による．